

第 53 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	宮川ゼミ	チーム名	nakfom~なくふおむ☆~
タイトル	なぜドタキャンしたくなるの?~行動経済学による解明~		
テーマ群	a)理論・情報		
メンバー	有浦秀、岡桃花、伊永陸人、野津秀太、福島奈々、升本未衣菜		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>「人は、1日に最大3万5000回の決断を行っている」。これは、ケンブリッジ大学の Sahakian 氏の研究結果である。私たちは、日々膨大な数の「選択」を迫られ、その都度最善の選択をしたいと考えている。それゆえ、ときには選択に悩んだり、ストレスになったりすることも少なくない。そこで、私たちは悩んでしまう原因、後悔しない選択をするにはどうすればよいかということに焦点を当てて研究を行った。具体的には、アンケートを用いて選択や心情を数量化し、データ分析を行うことを通じて、後悔をしない決断を導き出すことを試みた。また、悩んだり、後悔をする心理状況は「予定を立てていたのに直前になって行きたくなくなってしまう」という、ドタキャンをしたくなる心理にも似ていることから、ドタキャンと意思決定という観点からも研究を行った</p> <p>【研究内容】</p> <p>本研究では、ドタキャン(予定の直前でやめること)をしたくなる心理と、意思決定における迷いを行動経済学の観点から分析した。特に、双曲割引(遠い将来は待つことができるが、近い将来は待つことができないという理論)と解釈レベル理論(出来事に対する心理的距離の遠近が評価に影響するという理論)を用いる。さらに、予定や意思決定に際してどのような理由で悩み、どのような決断を下したのかについても研究した。その結果、満足したのか・後悔したのかなどのデータを、アンケート調査を通じて収集し、これらを回帰分析を用いて研究した。そして、「後悔しない選択をするためにはどうすればよいのか」ということについて考察を行う。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>「予定の直前になって面倒くさい・だるいなどの理由で行きたい気持ちが薄れてしまうこと」に対する原因や、意思決定で迷ったときにどのように選択すればよいのかという提案を行う。これらを用いると、日々訪れる膨大な量の選択の一つ一つの判断がしやすくなり、これから私たちが直面し、選択に悩むことが予想される就職活動のような人生の岐路において、後悔しない選択が可能になる。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none">・池田新介(2013)、『自滅する選択』、東洋経済新報社・阿部誠(2021)、『サクッとわかる ビジネス教養 行動経済学』、新星出版社・Read, D. and B. Van Leeuwen (1998) "Predicting Hunger: The Effects of Appetite and Delay on Choice," <i>Organizational Behavior and Human Decision Processes</i> 76, pp.189-205.		